SVCF 通信
第 122 号　2020.5.19
公益社団法人 福島原発行動隊
東京都千代田区神田淡路町1-21-7
静和ビル 1階A室　〒101-0063
Tel: 03-3255-5910　Fax: 03-3525-4811
Mail: svcf-admin@svcf.jp　Web: http://svcf.jp

【転居された方は事務局（svcf-admin@svcf.jp）まで転居先をお知らせください】

SVCF の現況と展望

理事長　安藤博

＜寄るな触るな＞

年度入り間もなくの４月７日、緊急事態が宣言された。4 月末には、５月末までの延長が決められた。ヨーロッパ全人口の約半分が死に至ったという黒死病（1348-1420）や SARS（2002-2003 年）の再来、そして世界恐慌（1929 年）以来の大不況が言われるなか、わたくしたち福島原発行動隊（SVCF）の活動にも深刻な影響があると考えざるを得ない。「グローバリゼーションのリスクが過小評価されてきた」と改めて言われている。もっと具体的には、ひと・ものが集まることのリスクが、緊急事態宣言下「三密禁止」と強調される、「寄るな触るな！」である。

4 月 12 日の川内村村長選挙で SVCF にも馴染み深い現職、遠藤雄幸さんが再選されたのに祝辞を送った、そのついでに同村の行動隊メンバーと電話で「コロナ禍には遠く、いまや‘安全地帯’の帰還困難区域」に出向く計画を諮った。ところが、「首都圏から来るひとは警戒されているから、もう少し経ってからがいい」と言われた。「福島復興支援事業により多角的に取り組んでいく」と 2020 年度事業計画で謳っている（前 121 号『通信』参照）のだが、そもそも福島に足を向けることに二の足を踏まざるを得ないのが現状である。

行動らしいことが何もできないまま、2020 年度に入って早くも２か月近くを経ている。中島賢一郎会員による月例の＜東電福島第一 Watcher Report＞は続けられているが、それ以外には、会費納入の要請書状を振込用紙とともに会員/隊員約 1,000 人にお送りしただけである。年度初めの例年通りの作業で、ただ、要請状に麻生、飯島、家森、牛島、都野、松井の６人の方が「手書きのひとこと」を加える労をとって下さった。そのおかげか、5 月初め現在の会費/寄付金納入は前年までより順調に進んでいる。

「会費/寄付金をいただくだけで何もしない」ではすまない。この閉塞状態にあっても、団体定款に示され事業計画に挙げている行動をどのように実行するか―「高齢者団体だから IT は苦手」の逃げ口上は通らない。「高齢者が、長年培った経験と能力を活用し」て行動する（「福島原発行動隊の基本的な立場について」2011 年 9 月 9 日）という言葉に背くことのないよう、皆さん、精いっぱい知恵を発揮していただきたい。

以下に「SVCF の現況と展望」を。明日の事さえ見通せない。「展望」は難しいが、「今年度中には少なくともこれくらいのことは」を挙げている。

＜漸減する会員＞

「行動隊メンバーは何人ですか」と団体内外のひとからよく聞かれる。2 月 15 日福島市で集会を開催した折には地元紙の記者から、また三月半ばには広島市の戦前にお生まれの会員から「何人の隊員が？新しい隊員は入会なさっているのでしょうか？」と問うお便りをいただいた。

すぐに答えられねばならないことだが、簡単には答えられない。

団体名簿上、行動隊員約 540 人（2012 年度当初、682 人）、賛助会員約 630 人（同、1,613 人）。双方を兼ねる約 90 人を差し引いて約 1080 人。『SVCF 通信』など一斉配信の対象者 1,246 人。

一方、賛助会費納入者約 110 人(内 2 口以上の納入者が約 40 人)。毎週の事務局連絡会議や福島復興支援で福島に赴く常連者は約10人。この「10 人」と会費納入者「110 人」の間をしっかりつなぐことが急務である。

「原則 60 歳以上のシニア」を募集して立ち上がった団体だから、年とともに高齢化により活動できなくなった退会者が出る。それを補う新規加入が、思うに任せない。

＜漸減する会費収入＞

会員の漸減に伴い、会費収入は漸減している。

2015 年度（決算）　803,000 円
2016 年度（決算）　734,000 円
2017 年度（決算）　507,000 円
2018 年度（決算）　419,000 円
2019 年度（決算）　451,000 円
(2020 年度予算では 545,000 円。2020/5/7 現在の会費振込状況:正会員 3 名 20,000 円、賛助会員 85 名 324,000 円)

＜事業＞

・東電福島第一原子力発電所の Watcher Report。
・大熊町帰還困難区域内等で放射線モニタリング。
・富岡町や大熊町の帰還困難区域の被災/避難者の住宅保守作業支援。
・川内村＜高田島ヴィンヤード＞造営事業支援。
・福島県内で討論集会開催。

＜2020 年度目標＞

1、1 人一新会員を獲得。
2、支援事業とそれに関わる支援事業覚書を新たにもう一自治体で（川内村、楢葉町との覚書更新さえ、まだ出来ていない。団体公印を押すためには事務所に出向かねばならないが、緊急事態下、4 月以来事務所行きを控えている）。
3、大熊町など「帰還困難区域」が残る浜通り町村で討論集会開催。

寄稿:「非常事態宣言下のわたし」

コロナは、100 年、200 年に一度あるかないかの世界史的出来事です。ジョバンニ・ボッカチオ(1313-1375)の『デカメロン』冒頭に描き出されているのは、ペストに襲われたフィレンツェの惨状です。アイザック・ニュートン(1642- 1727)は、ペストでケンブリッジ大学が閉鎖されて郷里に疎開し雑事から解放されたため、万有引力の着想を得るなど「三大業績」をあげることができたといいます。
皆さんは如何お過ごしでしょうか。
5 人の方からご寄稿いただきました。「非常事態宣言下、福島原発行動隊(員)はどうしていたか」の歴史記録でもあります。

//

【茨城県笠間市　高橋済】

「いがっぺよ」の茨城から

緊急事態宣言の日、首都圏から少し離れた茨城県の笠間市で下校の見守りをしている我が小学校は、この日が入学式。参加した児童が、アリンコのように一列、黙々と歩くマスク姿に緊急事態をかすかに感じる、のどかな風景である。

ところが、次の日、突如、眠りから覚めた笠間は新学期開始3日目で全市の休校宣言。おかげで、明日から休校という日にたまたま孫を迎えに来ていた面識のないバアサンが俺に向かって「暇つぶしができなくなるね」と、いたく同情の声。「ばかやろー、暇つぶしで毎日、14 年もやっているわけじゃねえぞ」とは言い返さなかった、俺は「いがっぺよ」の住人、紳士の茨城アンコウだから。

本日のワイドショーで、東京でできないので茨城のつくば市のパチンコ屋に東京人が集まっていて、それが筑波の感染多発に関係がある、と言っているとの情報が、俺を見張る妻からもたらされた。

わが県知事は、どこかの県知事のように「来るな」

とは言わないと思う。だって、「いがっぺよ」の茨城だぜ。

昨日、スーパーでレジに並ぶ列が余りにもびっしりくっつき過ぎなので思わず、「2m、間を開けろと政府が言っているだろ」と不特定多数に向かって大声で吠えた。すかさず妻から、「余計なことを言うんじゃない」、とレッドカード。

すぐ妻から離れ、妻の目を盗んで従業員に、「列の指導をすべきだ」と言ったら「『離れて』の表示はしてある」と言うから、「表示なんか誰も読まない、列まで行って指導して」と指導した。

次回、ちゃんと指導しているか、それともそこまでしなくても「いがっぺよ」か。こんな生意気なことを言っている奴に限ってコロナになる。

「物言えば唇寒し」だ、くわばらくわばら。

【千葉県白井市　山田次郎】

コロナ工房職人に

WHO では普通のマスクではコロナ感染防止に効果無しとのいい加減な報告があるようですが、やらないよりやった方が絶対に良いとの信念でガーゼマスクを嫁はんと作っております。25 名ほどの献身的看護師たちが働く訪問看護ステーションの方々と利用者家族に使っていただくべくこの一ヶ月ほど邁進しております。院内集会にも出ず会費納入依頼の宛名書きにも名を上げず、ましてこの時勢にも関わらず小川町でイッパイやろうぜのような誘惑にもめげず家内工業！手作りマスクを使って感じた事は、環境保護や資源環境のエコから考えて、使い捨てマスクが如何にもったいない事だったか！

マスク 都内一部地域で店頭に大量に並ぶ 品薄解消に向かうか

2020 年 5 月 12 日 18 時 11 分　ＮＨＫテレビ

そして、またまたダブルガーゼが来てしまいました。これでマスクが 100 枚出来ると鼻息荒い嫁はん！ 「先約の別件作業がもう少しあるから」と防戦するわたしに、嫁はんは「だったらせめて生地の洗濯とアイロンだけでもやってよ！」と強硬意見。「そんな事言ったって約束では 20 日以降に到着するからそれからだって言ってただろう」と反論するもむなしく、嫁はんは自治会議事録を団地内に配布に出ていく始末。 むむむ！

【埼玉県朝霞市　田谷英浩】

わたしのコロナ対策

①長期戦を覚悟して部屋に2時間単位の日課表を貼りだした。大判のカレンダーの裏側を利用した。
朝8時から夜10時までを、2時間単位にヨコ線を引き、タテには時間と、自らに課す項目を書き込んだ。
これで8時～10時までは何をするか、10時～12時まではこれをする、と自身の行動に枠をはめた。こうでもしなければ、ダラダラと一日が過ぎてしまい、これから半年も、場合によっては一年も、外出もままならない、集会も出来ない、友人とも会えないなどという生活を送る自信がない。
②特別な用もないのに一日 3 人に電話することにした。会話することは自分のためでもあり、相手のためでもある。
ケイタイに登録外の知人・友人を含め、100 人の名前と電話番号を同様に貼りだした。

幸いカケホーダイという契約をしているので、何時間喋ってもタダ同然。一日 3 人を続けると、ひと月に一度は話すことになる。

「用もないのに電話してくるな」と言わないで。

【神奈川県茅ヶ崎市　佐藤知明】

2011/3/11 と重なるコロナ

どうしても今回の事態を3/11と重ね合わせて思うことは不可避だ。3/11 は衝撃から始まった。そして、パニック映画の主人公となったような異世界がいくつも目の前に現れた。東京から西へ向って大移動する人の群れ。今でも確信犯だったと思う、週明けのJRの全面運休（放射能を避けるためと言えないので、電力を理由とした）。何日か経って、自分の情報網から上がって来た、自衛隊員からのメッセージ「メルトダウンだから早く逃

げろ！」。にわかには信じられなかったが…神奈川県茅ケ崎市の自宅の庭へ出ると「放射能が降り注いでくる」のが見えた。もちろん幻覚の類だが。

そして、計画停電の暗闇と節電によるうす暗い世界。スクリーンかモニターのなかにいるとしか思えなかった。

しかし、いちばんの悪夢だったのは民主党政権のダメさ加減、そして上記のような世界が半ば故意的に不自然につくられた世界だったということだ（もっとも、今年見た土井敏邦監督の『福島は語る』では、引き継いだ自民政権も、ウソとごまかし以外ほぼ「なにもしていなかった」ことが決定的に分かる）。

今回は放射能ではなくウイルス。しかし、どこへでも忍び寄る恐怖は同様だ。しぶとく、なかなか消滅（死滅）しない点も同様だ。

アルベール・カミュ（1913-1960）

しかし、どちらも誠実に向かい合っていけば、いつかは終わる。カミュの『ペスト』では、もっとも大事なのは誠実さだ、と書かれている。では今の政権は？　優柔不断と無力、マスクでまで利権を貪ろうとする汚濁。

今回も、日中のがらんとした中心地や繁華街、シャッターの降ろされた商店街、がらがらの空港や航空機内…後に貴重な映像として使用できそうな、異世界がいくつも出現している。早く「ああ、あの時代は」と懐古できる日が来ますように。それまでは、じっと息をひそめ、分断された人々のことを思い、労わりあって過ごしていくしかない。止まない雨はないのだから。

【茨城県高萩市　高津戸厚】

時間があるのに

緊急事態下、悪魔（コロナウイルス）が茨城の片田舎にじわじわと迫ってくる感じがして、老人で持病のある私は家でじっとおとなしく暮らしています。人間（私）て不思議なもので、忙しく、時間がない時にはやたらとやりたいことが頭に浮かんでくる。一方、時間がある時にはやる気が起こらずダラダラと過ごす。結局やらない。

こんな茨城の怠慢老人です。

【今後のスケジュール】

コロナ緊急事態宣言下、事務所や国会議員会館に「出かけ」て「集まる」ことを自粛し、会議は自宅でパソコン、スマートフォンを使って行うことにしています。不便ですが、居ながらにして何処からでも参加できるという点で、かつてないチャンスを得ているともいえます。これまでご一緒することのなかった北海道や沖縄などの方々のご参加を楽しみにしています。

＜院内集会＞

・5 月:21 日（木曜）11:00-12:00
・6 月:25 日（木曜）11:00-12:00

＜事務局連絡会議＞

以下の各金曜日 10:30 から

・5 月:22、29
・6 月:5、12、19、26